

## 令和5年度第2回臨時理事会議事録

日 時 : 令和5年6月24日(土) 11:00~12:45

会 場 : 都市センターホテル3F コスモスホールⅡ (ハイブリッドで開催)

出席者 (下線はWeb会議システムによる出席)

理 事 長: 木村 正

副理事長: 青木 大輔、加藤 聖子

理 事: 岡本 愛光、岡田 英孝、亀井 良政、工藤 美樹、小林 陽一、柴原 浩章、関沢 明彦、  
中井 章人、永瀬 智、前田 長正、増山 寿、万代 昌紀、三上 幹男、横山 正俊、  
吉田 好雄、若槻 明彦、渡部 洋、渡利 英道

監 事: 藤井 知行、増崎 英明、八重樫 伸生

顧 問: 小西 郁生、吉村 泰典

特任理事: 川名 敬、宮城 悦子、横山 良仁

専門委員会委員長: 杉山 隆、寺内 公一、

幹事長兼第75回学術集会プログラム委員長: 矢内原 臨

第76回学術集会プログラム委員長: 曾根 献文

第77回学術集会プログラム委員長: 衛藤 英理子

副幹事長: 徳永 英樹

幹 事: 池田 悠至、泉谷 知明、井上 大輔、井平 圭、春日 義史、桑原 慶充、小出 馨子、  
古宇 家正、小松 宏彰、佐藤 健二、高江 正道、竹中 将貴、中川 慧、野口 靖之、  
福原 理恵、細川 義彦、森 繭代、森定 徹、矢幡 秀昭、山口 建

議 長: 久具 宏司

副 議 長: 中塚 幹也、田中 京子

弁 護 士: 平岩 敬一

名誉会員: 嘉村 敏治、中林 正雄、平松 祐司

事 務 局: 吉田 隆人、正宗 玄、加藤 大輔

11:00 定刻になり、理事長、副理事長、理事の21名(青木 陽一理事、大須賀 穰理事、生水 真紀夫理事、杉浦 真弓理事は欠席)が出席し、定足数に達しているため、木村正理事長より開会の宣言があった。なお、Web会議システム(Zoom)を用いての開催のため、事前に出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたうえで、議案の審議に入った。また、議事録署名人には、理事長、監事の計4名を選出し、これを承認した。

続いて、令和5年6月3日開催の令和5年度第1回の理事会の議事録案を承認した。

### I. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総 務 (青木大輔副理事長)

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

- ① こばやし 小林 そうすけ 總介 功労会員（東京）が令和4年9月21日にご逝去された。
- ② さいとう 齋藤 よしはる 良治 名誉会員（宮城）が令和5年3月28日にご逝去された。
- ③ さとう 佐藤 かずお 和雄 名誉会員（神奈川）が令和5年6月9日にご逝去された。
- ④ かが 利部 てるお 輝雄 名誉会員（岩手）が令和5年6月10日にご逝去された。

(2) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

① 会議開催

|                            |       |
|----------------------------|-------|
| 令和5年度 第1回婦人科腫瘍委員会 (Web 会議) | 5月29日 |
|----------------------------|-------|

② 「卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 臨床編補訂版」について、9月発刊に向けて作業を継続している。

(ハ) 周産期委員会

① 丸石製薬株式会社より、プロスタルモン・F注射液2000の販売中止検討に関する相談を受けたため審議を行ったが、特に問題はないとの結論に至った。

杉山隆委員長「1000mgが継続して販売されるため、特に問題ない。」

② 厚生労働大臣に対して、胎児頻脈性不整脈治療薬としてのジゴキシン、ソタロール、フレカイニドの「医薬品の適応外使用事例」申請の要望を行いたい。

[資料: 専門委員会 1]

本件については特に異議はなく、全会一致で承認された。

③ 重症心疾患スクリーニングについて

本件については、医会の考え方が重要であり、医会とも連携を取り、また本会委員より意見を募り、日本新生児成育医学会に回答を行う予定である。

[資料: 専門委員会 2]

杉山隆委員長「日本新生児成育医学会から照会いただいたプロトコル案について検討した。すべての新生児に対して、生後48時間以内にサチュレーションの異常があれば、精査が必要で、新生児科医に診察していただく必要があるというものです。プロトコル案について本会からは3点を示し、日本新生児成育医学会に回答したい。1点目は、産婦人科診療所などにおいても対応可能であり、本案に基づく管理を推奨することに賛成するという。2点目は今後、分娩娩取扱施設から基幹施設の小児科への紹介症例が増加するであろうから、しっかりと小児科基幹施設への周知と体制構築というのをしっかりと図っていただきたいという要望。3点目は周産期委員会の委員から出された質問である（出生後24時間頃を目安という記載でも良いのではないか）。」

青木大輔副理事長「体制構築状況を逐次知らせてほしいというような文言を入れてもよいかなと思う。測ることはすぐできる気がするが、そのあの方が肝心である。」

杉山隆委員長「おっしゃる通りで、大事なことであり、これを実行しなかったことによって、色々なことが起こらないように注意したいと思う。費用についての統一した見解も必要であり、確認する。」

木村正理事長「2番について、文末を変えていただいて、やはり費用なしで医療行為をする

と、これは結果責任なしのボランティア行為になる。その辺りも含めて、ご検討いただきたい。」

上記の議論に基づき回答案を変更して提出する方針で承認された。

④フィリップス社の児頭電極販売中止に伴う今後の運用について

フィリップス社の児頭電極は、日本ではアトムメディカルの全面支援の下、販売されている。今回、製造中止に伴い、本会としては、供給停止までに代替品供給が開始されることを強く希望している。 [資料:専門委員会 2-0-1]

(以前の理事会で、社会保険委員会及び本委員会より報告済みである)。

なお、現在の使用状況であれば、本機器の供給停止までに代替品の供給体制が確立し、供給可能であろうとのことである。

そこで、本委員会とフィリップス Japan と 2 回の協議を経て、以下の流れで運用する運びとなった。

・フィリップス社の児頭電極をわが国で唯一発売しているアトム社に対して現状を通知する。 [資料:専門委員会 2-0-2]

・ユーザーに対しては、問い合わせがあった際、レター [資料:専門委員会 2-0-3] を通知する。

全ユーザー (70 施設) に通知することにより、買い占め等を調節することが困難となるため、混乱を避けるために上記プロセスがよいと考えた次第である。

(二)女性ヘルスケア委員会

①会議開催

|                                  |          |
|----------------------------------|----------|
| 令和 5 年度 第 1 回女性ヘルスケア委員会 (Web 会議) | 6 月 19 日 |
|----------------------------------|----------|

②「2023 年度メノポーズ週間事業」HRT ガイドライン 2017 を基にした一般向けのガイドブック作成について [資料:専門委員会 3]

青木大輔副理事長「これは女性ヘルスケア委員会というよりは日本女性医学学会からお諮りする事項ということになるが、HRT ガイドラインに基づいた一般患者向けの小冊子を作成したいと考えている。日本女性医学学会と共同編集で進めてよいかお諮りしたい。」

本件については特に異議はなく、全会一致で承認された。

③書籍頒布状況 (5 月 31 日現在)

| 書籍名                                       | 5 月販売 | 累計販売数 |
|---|-------|-------|
| 低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲスチン配合薬ガイドライン 2020 電子版付 | 67    | 6,410 |
| ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版                   | 19    | 4,282 |
| ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用 ID・PW 付      | 21    | 1,835 |
| 女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針                     | 5     | 1,371 |

(3)「75 年史小委員会」

①巻頭に掲載する「挨拶文」について、「理事長制以前の会長」および「歴代理事長」と

平岩敬一顧問弁護士宛にご執筆依頼をした。

(4) 「SRHR 諮問委員会」

**加藤聖子副理事長**「共同親権に関する学会からのさまざまな要望書の原案を作成し、諮問委員会の先生方に見てもらっているところである。7月末までには要望書を完成し、次回の理事会でお諮りし、関連学会との連名で出すことを考えている。」

(5) 「旧優生保護法検討委員会」

衆議院調査局厚生労働調査室より、「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律第21条に基づく調査報告書」を、令和5年6月19日に衆参両院の厚生労働委員長からそれぞれ衆参両院の議長に提出したとの報告を受けた。

[資料：総務1]

<同報告書の掲載されている衆議院のホームページのURL>

[旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律第21条に基づく調査報告書 \(shugiin.go.jp\)](https://www.shugiin.go.jp)

**加藤聖子副理事長**「報告書の中には本会が発出した福岡宣言が取り入れられている。」

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省、こども家庭庁

①会員周知依頼(ホームページに掲載済)

| 部署             | 内容  | 資料      |
|----------------|---|---------|
| こども家庭庁成育局母子保健課 | 令和5年梅雨前線による大雨及び台風第2号による災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について | [総務1-1] |

②厚生労働省医政局医事課

令和5年8月2日(水)開催予定の医道審議会医師分科会医師臨床研修部会において「小児科・産科プログラム」の在り方の見直しを行うにあたり、意見を求めたいとのことで本会会員の出席依頼を受領した。

[資料：総務2]

**木村正理事長**「これは周産期委員会にお願いしたい。本会は教育活動の資料を作成するなどして力を入れていることをアピールしていただきたい。」

(2) 福島県

福島県知事より「県民健康調査」検討委員会委員の推薦依頼を受領した。令和3年8月より室月淳先生(宮城県立こども病院)にお引き受けいただいたが、今般任期満了により改選となるもの。

[資料：総務3]

**青木大輔副理事長**「周産期委員会に対応をお願いできるか？」

**杉山隆委員長**「承知した。周産期委員会で、室月先生に代わる候補者を検討する。」

本件については特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的な推進に関する法律」の可決成立(令和5年6月9日)について

[資料：総務3-1]

**藤井知行監事**「この法律は生殖補助医療の法律と合わせて国の責務がはっきり書いてある。」

今後、本会が以前からずっと取り組んでいることに対して、一つの追い風にはなるのではないかと思う。」

**木村正理事長**「出生前あるいは着床前遺伝学的検査はゲノム医療そのものだと思うので、その点もまた強調していきたいと思う。」

#### (4) 令和5年度こども家庭科学研究補助金

7月22日(土)開催予定の「DV・性暴力被害者の医療と連携した支援体制の構築のための研究」中間報告会の周知依頼があり、会員向けにホームページに掲載し周知したい。

[資料：総務3-2]

本件については特に異議はなく、全会一致で承認された。

### [Ⅲ. 関連団体]

#### (1) 日本医学会、日本医学会連合

##### ① 会員周知依頼

| 依頼元                  | 内容  | 資料    |
|----------------------|---|-------|
| 独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長 | レギュラトリーサイエンス総合相談ならびに戦略相談に関する実施要綱の一部改正について | [総務4] |

本件については特に異議はなく、本会ホームページ上で周知することについて、全会一致で承認された。

##### ② 日本医学会

2023年11月25日(土)第33回日本医学会公開フォーラム「女性に関連する問題(仮題)」の開催にあたり、本会より加藤聖子副理事長と水主川純先生(東京女子医科大学)に組織委員をお引き受けいただき、総合司会と講演をいただくこととなった。

[資料：総務5,5-1]

**加藤聖子副理事長**より画面共有により、決定した各演者名について口頭で報告があり、細目決まれば適時にホームページで案内することとなった。

##### ③ 日本医学会連合

・日本医学会連合研究倫理委員会より、「学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針」をウェブサイトに掲載した旨の連絡を受領した。 [資料：総務5-2]

**木村正理事長**「再度理事の先生には確認して頂き、丁度医学会連合よりCOIに関する案内が送られてくるので、そちらと合わせて掲載することを検討いただきたい。」

本件については特に異議はなく、全会一致で承認された。

・日本医学会連合 教育・研究推進委員会傘下の「ゲノム編集技術の医学応用に関する検討作業部会」において作成したゲノム編集解説ウェブサイトを公開した旨の通知および本会会員への周知依頼を受領した。 [資料：総務5-3]

#### (2) 日本がん治療認定医機構

関連学会連絡委員会が5月29日(月)に開催され、本会からは青木大輔副理事長に出席いただいた。

[資料：総務6]

**青木大輔副理事長**「試験が CBT になったことが大きな変化である。受験者数が減少している現状だが、推移を見守りたい。」

(3) 日本生殖医学会

本会より発出した「『生殖補助医療実施医療機関の登録と報告に関する見解』改訂に関するお伺い」に対する回答書を受領した。 [資料：総務 7]

**木村正理事長**「本会が生殖補助医療実施機関に関して、その実施責任者に関する資格をどうするかということを問題として投げかけたことに対するものである。本会と合同で話をしていくこととなった。」

(4) 日本助産師会

「助産業務ガイドライン 2019」の見直しに伴い、本会より助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会の委員 1 名の派遣依頼を受領した。 [資料：総務 8]

本件については、周産期委員会、杉山委員長に一任することで承認された。

[IV. その他]

(1) 公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団より、2023 年度研究助成金募集のお知らせを受領した。例年のことであり本会ホームページに掲載し会員に周知したい。

[資料：総務 9]

本件については特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) ファイザー株式会社

子宮内膜症等治療剤「ナサニール点鼻液 0.2%」について限定出荷による出荷再開の連絡を受領した。 [資料：総務 10]

(3) フューチャーインスペース株式会社

現在、本会業務関連システムの開発・運営保守を委託しているフューチャーインスペース株式会社から、ホームページ上の求職者向けコンテンツの支援企業一覧に、本会ロゴマークを掲載したいとの承諾依頼書を受領し、これに応諾した。 [資料：総務 11]

(4) 持田製薬株式会社

ウロキナーゼ製剤の在庫消尽時期について、「ウロナーゼ 12 万単位」は 2023 年 9 月以降に、「ウロナーゼ 6 万単位」は 2024 年 6 月以降となる見込みとの報告を受領した。昨年 11 月同様本会ホームページに掲載し会員に周知することとしたい。

[資料：総務 12]

**木村正理事長**「人尿を使用した製剤が減少してきている。将来的には無くなると考えて生殖内分泌委員会で要望を出すなど検討いただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 京都薬品工業株式会社

便秘治療剤「新レシカルボン坐剤」に関し、供給継続についての要望書の提出依頼を受領した。 [資料：総務 13]

**木村正理事長**「類似品がないということで、供給継続のためのサポートレター記載の要望である。前回、令和 3 年度と同様の雛形で作成する。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 2) 会 計（万代昌紀常務理事）

### (1) 一般向け広報活動について

[資料:会計 1]

**万代昌紀常務理事**「令和4年度に関しては、公益目的事業が7000万円の赤字で終わったことにより本会全体の会計でも、400万円強の赤字となった。これにより収支相償の問題は、今年度で解決ということになった。一方で今後のことを考えると、やはり会計の健全性を確保する必要がある。各委員会経費の赤字が膨らんだことが要因である。これは学会のアクティビティを示すものではあるが、コントロールしていかなければと考えている。特に一般向け広報活動は重要だが、メンテナンスにも費用がかかる。予算については、各委員会で随時見直しをしていただきたい。」

### (2) 令和5年度の予算使用目標額について

[資料:会計 2]

**万代昌紀常務理事**「各委員会予算の目標額を削減し、予算申請のあったものから一律8割で最終査定した。毎年目標額の8割ほどが執行されているためである。年度を通じてモニターしていきたい。」

**木村正理事長**「今期の予算は渋めでお願いしたい。」

## 3) 学 術（岡本愛光常務理事）

### (1) 学術委員会

#### ① 会議開催

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 筆記試験問題評価委員会     | 8月中旬予定 |
| 学術講演会評価委員会      | 8月上旬予定 |
| 令和5年度第2回学術担当理事会 | 8月下旬予定 |
| 令和5年度第2回学術委員会   | 8月下旬予定 |

### (2) 他団体の特別賞推薦依頼について

#### ① 「2023年度日本医師会医学研究奨励賞」推薦候補者について

理事および学術委員会委員に候補者の推薦を依頼し、推薦期日までに2名の候補者推薦を受けた。本会より推薦できるのは各部門1名ずつであり、学術担当理事による選考の結果、横井 暁（よこいあきら）君（名古屋大学、研究題目：難治性婦人科がん患者体液中細胞外小胞エクソソーム解析による新規診断治療開発、臨床（外科系）部門）を本会からの候補者として推薦した

[資料：学術 1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### ② 「第21回SGH特別賞」推薦候補者について

理事および学術委員会委員に候補者の推薦を依頼し、推薦期日までに1名の候補者推薦を受けた。学術担当理事による選考の結果、澤田健二郎（さわだけんじろう）君（大阪大学、研究テーマ：卵巣がんの腹膜播種制御をめざしたエクソソームに焦点を当てた新規分子標的治療の開発）を本会からの候補者として推薦したい。

[資料：学術 2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### ③ 他団体からの受賞候補者推薦依頼ならびに選考について

他団体からの受賞候補者推薦依頼を受領し、理事および学術委員会委員に候補者推薦を依頼した。

- ・「2023年度（第26回）神澤医学賞」：推薦候補者は学術担当理事で選考を行い、第2回理事会（9月2日）に答申する予定。 [資料：学術3]

- ・「第19回ヘルシー・ソサエティ賞」「令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術者賞、若手科学者賞及び研究支援賞）」：回答期日の都合上、学術担当理事に選考をご一任いただきたい。 [資料：学術4、5]

- ・「2023年度上原賞（研究業績褒賞）」：回答期日の都合上、学術担当理事に選考をご一任いただきたい。 [資料：学術6]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (3) プログラム委員会関連 特になし

## 4) 編集（加藤聖子副理事長）

### (1) 会議開催

|                        |      |
|------------------------|------|
| 令和5年度第1回編集担当理事会（WEB開催） | 6月2日 |
|------------------------|------|

### (2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：（5月31日現在）

[資料：編集1]

|                     | 2021        | 2022        | 2023       |
|---------------------|-------------|-------------|------------|
| Pending / Withdrawn | 40          | 55          | 294        |
| Accepted            | 436         | 317         | 38         |
| Rejected            | 2124        | 1812        | 526        |
| <b>Grand Total</b>  | <b>2600</b> | <b>2184</b> | <b>858</b> |

加藤聖子副理事長「JOGRが来年度50刊となる。50刊記念号を発刊することを検討している。」

## 5) 渉外（森繭代主務幹事）

### (1) 第75回日産婦学会学術講演会会期中の海外ゲストとのミーティングについて

[資料：渉外1]

### (2) FIGO Trustee and Council Elections 2023 について

- ① 現Regional Trustee Asia OceaniaのDr. Ravi Chandra (AFOG Past President)より、後任として落合和徳先生を推薦するよう本会に提案があり、本人の意思を確認したところ、立候補を決意された旨回答があった為、本会よりFIGOへ推薦した。



② Council members 推薦について、本会は任期中により推薦対象外となるが、12学会を FIGO に推薦した。 [資料：渉外 2]

(3) 6月12～14日、ロンドンにて開催の RCOG World Congress 2023 に、本会より木村正理事長、大須賀穰渉外委員長、若手医師3名（東京大学 平岡毅大医師、慶應義塾大学 吉村拓馬医師、順天堂大学 瀬尾瑛美医師）を派遣した。会期後、6月15日に木村正理事長、および若手医師3名が Oxford 大学を訪問し、発表を行った。

(4) ベトナム ハノイにて開催の AOFOG Executive Board Meeting (6月13日) に、加藤聖子 AOFOG Editor-in-Chief、落合和徳 AOFOG Immediate Past President が出席した。また、AOFOG Council meeting (6月14日) に、梶山広明編集副委員長（渉外委員長代理として）、および加藤聖子 AOFOG Editor-in-Chief、落合和徳 AOFOG Immediate Past President、馬場長 AOFOG Committee Chair が出席した。 [資料：渉外 3]

**加藤聖子副理事長**「AOFOG への会費を支払っていない国が問題となっている。マカオ、エジプトが外れることになる。来年に釜山で開催される AOFOG のホームページが完成しているのでアクセスしていただきたい。」

(5) JICA 草の根技術協力事業 カンボジア「女性のヘルスプロモーションを通じた包括的子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト」について  
5月下旬から6月中旬にかけて、神田未和助産師（国立国際医療研究センター：NCGM）、藤田則子医師（長崎大学）、春山怜医師（NCGM）、松下友美医師（NCGM）をプノンペンに派遣した。 [資料：渉外 4]

(6) FIGO より依頼を受け、本会として The Red Line Initiative を支持する旨返答した。 [資料：渉外 5]

**木村正理事長**「戦争兵器として女性に対する性暴力を使うことを断固反対するという文章。本会としても是非賛同したいと思う」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

**木村正理事長**「FIGO の Council Members の推薦をした国に対しては、日本が推薦した旨を確りと報告していただきたい。」

**森蘭代主務幹事**「本件については報告を行い、各国から『acknowledged』と回答をいただいた。」

## 6) 社 保（永瀬智常務理事）特になし

**永瀬智常務理事**「先日、シスプラチンとカルボプラチン製剤に関して製造メーカーから連絡があり、今後の安定供給に関して、本会と日本婦人科腫瘍学会とでヒアリングを行う予定である」

**木村正理事長**「1社だけからきているのが気になるところ。合同ではないのか？他社動向も確認して欲しい。」

## 7) 専門医制度（関沢明彦常務理事）

### (1) 日本専門医機構関連

#### ① 会議開催

|   |           |
|---|-----------|
| 日本専門医機構 第3回 2024年度専門医養成数に関する検討協議会 全体会議        | 6月9日      |
| 日本専門医機構 第1回「専門医認定・更新委員会」「専門医検討委員会(認定・更新)」合同会議 | 6月12日     |
| 日本専門医機構 定時社員総会                                | 6月30日【予定】 |
| 日本専門医機構とのメスを置いた外科医に関する面談                      | 7月11日【予定】 |

**関沢明彦常務理事**「6月9日に行われた日本専門医機構の第3回 2024年度専門医養成数に関する検討協議会について、2024年度の専門医募集においては、2023年の基準を変更しないということで従来通りシーリングを継続することが報告された。産婦人科に対してはシーリングがかからない。また、子育て支援加算の導入も2024年度は見送りということで、2025年度以降に導入を目指すようである。2025年の募集については、シーリングの可否を含めて抜本的な見直しを行うことになり、このことは、機構の理事会の中でも承認されている。そして、7月11日に日本専門医機構とのメスを置いた外科医に関する面談が予定されている。手術をしなくなった外科医が外科専門医を名乗ることについて、専門医機構内で一般の市民代表の理事から反対意見があるという話を聞いている。この件に関してご意見をお寄せいただければと思う。また、機構承認の専門医のあり方について産婦人科サブスペシャルティ領域連絡協議会を開催し、今後の方向性について検討していきたいということで、近く日程調整等を行う。この協議会について、今回メンバーが変わるため、次期理事長、副理事長、専門医制度委員会の委員長、副委員長、そして木村先生、次期サブスペシャルティ連絡協議会の渡利先生にも、本会側の委員として出席していただきたく、委員名簿を作り直す予定である。今夏にまた機構承認のサブスペ領域の専門医プログラム募集があるかと思うので、早めに検討を進めていかなければいけないと考えている。」

#### ② 臨床研究医コース整備指針一部変更に伴うプログラム制整備基準およびカリキュラム制整備基準の改定について [資料: 専門医 1-1~1-8]

**関沢明彦常務理事**「前回の理事会で臨床研究医コースの募集開始と専門医機構の整備指針の改定について報告した。資料1-1が、機構の改訂版の整備指針である。この指針を受けて、本会の整備基準を改定した。資料1-4が、プログラム整備基準の新旧対照表である。臨床研究コースはカリキュラム制の中で動いているので、プログラムの整備基準には、修了要件は別に定めるといった記載のみになっている。1-7がカリキュラム制の整備基準になった新旧対照表である。主な点としては、①臨床研究コースが5-6年間で終了できること。そして、地域検診地域医療研修が免除されて、基幹施設でのみ研修を行うことが許容される。②5-6年で研修が終了できない場合には、届け出をした上で通常のカリキュラム制に移行する。③必要な論文業績について、臨床研究コースではもともと2本の筆頭著者としての英語論文が必要だったが、1本は症例報告の英語論文、または日本語の臨床研究論文でも代用できるということで基準が緩和された。この整備基準についてご承認いただければと思う。」

木村正理事長「臨床研究コースはなかなか扱いにくいコースで、手挙げをすることを願っていたような感じであったので、今回の変更で手挙げできる施設もあるかと感じるので、各地域の大学にご説明をお願いしたい。」

関沢明彦常務理事「明日説明会があるので、丁寧に説明していきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

関沢明彦常務理事「本会での承認後、専門医機構の理事会で諮られ承認されると正式に案内される予定である。」

## (2) 学会専門医制度関連

### ①会議開催

|                            |           |
|----------------------------|-----------|
| 第2回中央専門医制度委員会、全国地方委員会委員長会議 | 6月25日【予定】 |
|----------------------------|-----------|

関沢明彦常務理事「専門試験のことでご報告であるが、二次審査が7月22日に筆記試験、23日に面接試験を東京と大阪の2会場で開催する。COVID-19が5類相当になってから初めての開催だが、昨年同様、筆記試験会場は受験者の間隔を広めに確保して、原則マスク着用、入口には消毒液を配置してというような形で開催したい。」

木村正理事長「全国の定点観測では、やはり東京・大阪は感染者数が多い。一定の注意が必要である。」

## 8) 臨床倫理監理委員会（三上幹男常務理事）

### (1) 本会の見解に基づく諸登録（令和5年5月31日現在）

|   |               |
|---|---------------|
| ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録                | 124 研究（49 施設） |
| 体外受精・胚移植に関する登録                          | 638 施設        |
| ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録                  | 638 施設        |
| 顕微授精に関する登録                              | 614 施設        |
| 医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録 | 182 施設        |
| 提供精子を用いた人工授精に関する登録                      | 16 施設         |

### (2) 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

[資料：臨床倫理 1-1, 1-2]

### (3) 不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

[資料：臨床倫理 2]

### (4) がん・生殖医療施設認定小委員会報告

①妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）、温存後生殖補助医療実施医療機関審査状況・承認施設について [資料：臨床倫理 3]

・妊孕性温存療法実施医療機関：157 施設

・温存後生殖補助医療実施医療機関である妊孕性温存療法実施医療機関：134 施設

（うち、生殖医療専門医が不在のため、今年度いっぱいを目途に暫定施設として取り

扱う予定の施設：6施設)

・妊孕性温存療法は実施しない温存後生殖補助医療のみの実施医療機関：2施設

(5) こども家庭庁成育局母子保健課より、令和5年6月9日付けにて、「妊娠・出産に関する情報提供資材について」の事務連絡が各自治体宛てに発出されたことについて

[資料：臨床倫理4]

三上幹男常務理事「NIPT に関してのポスターを使ってくださいという連絡が来たということである。」

(6) 東京都からのノンメディカル卵子凍結に関する状況調査の依頼について

[https://www.jsog.or.jp/modules/news\\_m/index.php?content\\_id=1389](https://www.jsog.or.jp/modules/news_m/index.php?content_id=1389)

三上幹男常務理事「社会的適応という言葉の中に、例えばターナー症候群などの疾患自体に伴って卵巣の機能が低下する場合の卵子凍結と、健康だが加齢による妊孕性の低下を危惧して行う卵子凍結というものを一緒に、社会的適応の卵子凍結という言葉で括ってきたことに対して、全く違うカテゴリであることを示し、東京都に申し出を行った。これに関してはその文面があくまでもその卵子凍結に対するアンケートの内容までも、本会が検証して認めたというような感じで受け取られかねないので、本日の記者会見でも、そういう意味ではないことをしっかり話す予定である。」

(7) 京都大学病院倫理支援部/遺伝子診療部からの学会ホームページにて公開されている実施施設の情報利用 (PGT施設へのアンケート調査) に関する問い合わせについて

[資料：臨床倫理5]

三上幹男常務理事「実施施設については既に HP で公開されている。それらの施設に対するアンケート調査のために公開されている情報は自由に使っていただければ良いと思う。本会の許可を得る必要はないと思う」

本会の許可は会員以外の方であっても不要であることを確認した。

## 9) 教育 (渡利英道常務理事)

(1) 会議開催

|               |               |
|---------------|---------------|
| 令和5年度第1回教育委員会 | 5月23日 (WEB開催) |
|---------------|---------------|

(2) 書籍頒布状況 (5月31日現在)

| 書籍名                   | 5月販売数 | 累計販売数 |
|-----------------------|-------|-------|
| 用語集・用語解説集改訂第4版 (書籍版)  | 7     | 1,209 |
| 用語集・用語解説集改訂第4版 (電子版付) | 18    | 1,371 |
| 専門医試験例題と解説補遺⑥         | 27    | 1,565 |
| 2021年度専門医筆記試験過去問題・解説集 | 44    | 1,067 |
| 2022年度専門医筆記試験過去問題・解説集 | 197   | 616   |
| 産婦人科専門医のための必修知識2022   | 93    | 1,177 |

(3) 専門医試験作成委員会

筆記試験ならびに面接問題について原稿の最終校正を行っている

木村正理事長「教育委員会のホームページでは教育用の資料や動画が多く掲載されており、是非各大学で利用していただきたいと思う。」

10) 地方連絡委員会（渡利英道常務理事）

(1) 会議開催

|                         |             |
|-------------------------|-------------|
| 令和 5 年度地方連絡委員会 (WEB 開催) | 6 月 7 日 (水) |
|-------------------------|-------------|

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（工藤美樹常務理事）

(1) ホームページについて

ホームページアクセス状況について

[資料：広報 1]

工藤美樹常務理事「引き続きヒューマンプラスの販売にも協力をお願いしたい。」

2) 災害対策・復興委員会（中井章人委員長）

(1) 会議開催

|                          |                            |
|--------------------------|----------------------------|
| 第 4 回災害対策・復興委員会 (Web 開催) | 6 月 5 日 (月) 18 時～19 時 30 分 |
|--------------------------|----------------------------|

(2) 6 月に発生した災害への対応

① 6 月 2 日～3 日の大雨：被害状況について監視していたが、局地的な災害であり、PEACE 掲示板等の利用もなかったことを確認した。

② 6 月 11 日北海道の最大震度 5 弱の地震：発生後すぐに委員会メンバーより分娩施設での被害が無いことの情報共有が行われた。

(3) PEACE 訓練時の利用申請：1 件（昨年度 28 件）

(4) PEACE システム刷新 WG の活動報告

WG 発足より 2023 年 3 月 10 日、3 月 31 日、4 月 10 日、4 月 24 日、5 月 8 日、6 月 1 日の計 6 回の会議を実施し、6 月 5 日の委員会にて「委員会への提言」および「基本設計案」の中間報告が行われた。今後、委員会での意見をもとに引き続き検討を進めていく。

3) 診療ガイドライン運営委員会（竹中将貴主務幹事）

(1) 2020 ガイドライン販売状況

① 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」頒布状況について（5月末日現在）

|           | 5月販売数 | 累計販売数  |
|-----------|-------|--------|
| 書籍版(電子版付) | 140   | 16,710 |

② 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2020」頒布状況について（5月末日現在）

|           | 5月販売数 | 累計販売数  |
|-----------|-------|--------|
| 書籍版(電子版付) | 19    | 10,848 |

(2) 診療ガイドライン 2023 の発刊時期について

診療ガイドライン 2023 については「産科編」「婦人科外来編」共に KaLib Store（オンラインストア）から8月中に販売を開始する予定である。

| GL2023 | 販売単価    |
|--------|---------|
| 産科編    | 8,000 円 |
| 婦人科外来編 | 8,000 円 |

4) コンプライアンス委員会（若槻明彦委員長）

(1) 本会役員等への COI 自己申告書の提出依頼と回収状況について

未提出者に対しては、主務幹事より電話連絡し、督促を実施している。

若槻明彦委員長「前回理事会で30名ほど未提出の状況で報告し、上長にもお願いすることとなったが、回収が思うように進まなかった。郵便からメールに変更したことが一つの要因であるようだが、何とか督促を続け現状は4名迄になった。」

5) サステナブル産婦人科医療体制確立委員会（増山寿委員長）

(1) 会議開催

|                        |           |
|------------------------|-----------|
| 令和5年度第1回C2水準審査委員会(WEB) | 7月25日【予定】 |
|------------------------|-----------|

(2) 周産期医療の広場について

① 研究調査利用目的として、周産期医療の広場で公開している分娩取り扱い施設データベースの提供依頼があり、これを承諾した。

『妊娠中のワクチン接種に関する産婦人科医を対象としたアンケート調査』研究責任者：日本大学医学部微生物学分野 相澤志保子先生

② 同じく研究調査利用目的として、分娩取り扱い施設データベースの情報更新について問い合わせを受け付け、回答した。

『厚労省科研 持続可能な周産期医療と医療機関の役割分担を目的とした周産期医療圏の全国実態把握調査研究』研究代表者：長野市民病院 村元勤先生

(3) C-2 水準審査業務について

① 令和5年度第1回審査委員会は7月下旬に開催予定である。

増山寿委員長「C-2 水準審査業務について 7 月 25 日に第 1 回審査委員会が開催されるが産婦人科関係は 30 件程度の申請と聞いている。どんな内容であったか、またフィードバックできればと思っている」

木村正理事長「C-2 水準は、今のうちに進めておいて、産婦人科はこういうことを考えていると審査委員会の方に伝えておくのが大事と思う。」

加藤聖子副理事長「自院の事務方に確認してみたが、結局、時間外労働に対する残業代を払わないといけなくなるので、病院全体としては、C-2 水準は申請しない方針としている病院も多いかと思う。病院それぞれ事情が違うかと思う。」

木村正理事長「36 協定で一定のラインがあって、それを超えては支払えないということだが、C-2 水準の一番の目的は外勤先の医療機関に行く場合に、その個人が申請をしているかということである。むしろ大学で 1860 時間まで働くという話ではないとご理解いただきたい。」

八重樫伸生監事「この審査委員会というのは厚生労働省の方の審査委員会ということか。」

木村正理事長「然り。各学会が入っており、その中に産婦人科も入っている。しかし診療科によって温度差がかなりあり、産婦人科の実態をなかなか理解してもらえない。従って、早期に動いて、時間をかけて理解いただくよう努めている。」

増山寿委員長「やはりなるべくは広い範囲で、C-2 水準で認められているものを作っておくことが何年か先を見据えても重要であるので、今から動き出す形にさせていただく。審査委員会も各診療科が混在するが、本当にすごい温度差があり、内科系診療科からは全く理解していただけない状況である。なるべく理解を広げていき、幅広い内容で認めていただくことを目指したいと思っている」

## 6) 産婦人科未来委員会 (吉田好雄委員長)

### (1) 会議開催

|                             |
|-----------------------------|
| 産婦人科サマースクール第 2 回事前会議 (現地開催) |
|-----------------------------|

|              |
|--------------|
| 6 月 30 日【予定】 |
|--------------|

### (2) サマースクール(SS)

=====

第 17 回産婦人科サマースクール

開催日程：2023 年 8 月 19 日 (土) ～20 日 (日)

会場および開催形式：アートホテル大阪ベイタワー (現地開催)

内容：実技実習 (分娩・産科外科手技・腹腔鏡・超音波)、臨床推論、未来相談会

対象者：医学生 5～6 年生、臨床研修医 1 年目

募集人数：200～250 名

チューター：61 名 (応募締め切り済)

=====

6 月 5 日から参加者募集を開始した。(6 月 19 日応募締め切り)

吉田好雄委員長「300 名近い応募があった。盛況となることが期待される。」

### (3) Welcome to OBGYN World! (WOW!)

=====

第 3 回 Welcome to OBGYN World!

開催日時：2023年10月22日（日） 13：00～17：00

開催形式：ハイブリッド形式（各大学での現地参加を推奨）

対象者：医学部医学科1～4年生

募集人数：300名

チューター：専攻医3年目～医師10年目程度（目安） 各大学2名程度

目的：産婦人科領域への興味付け、各大学の学生とチューターとの繋がりを深める

=====  
6月下旬からチューター募集を開始する。各大学からは是非ご協力いただきたい。

#### 7) リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会（横山良仁委員長）

**横山良仁委員長**「本日の定時総会で提出した本会の事業報告の中で、専門医のための必修知識の中にSRHR関連の記載がある。その中で、性教育の講師としての資格をどのように本会としてとらえているのかという質問があった。それに対する回答としては、専門医資格と性教育の資格は別であるということを説明する予定である。」

**木村正理事長**「産婦人科の専門医資格が性教育の資格と言われると違和感があり、専門医資格が性教育の目的のためだけにあるものではないということで丁寧に説明をお願いしたい。」

#### 8) 医療安全推進委員会（亀井良政委員長）

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和5年5月の医療事故調査制度現況報告を受領した。 [資料：医療安全1]

(2) 一般社団法人日本医療安全調査機構より「定時社員総会」（6月22日（木）ハイブリッド開催）に、木村理事長の代理として亀井良政委員長が出席した。

(3) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センターより「2023年度協力学会担当者リスト 更新依頼」を受領した。資料に記載の先生方に協力委員として依頼のうえ応諾頂いた。 [資料：医療安全2]

**藤井知行監事**「先日最高裁判所の医事関係訴訟委員会に出席し、部長が話していたが、産科医療補償制度ができてから産科の訴訟は減った。一方、医療事故調査制度ができてからその他の診療科の訴訟は増えている。この報告書を基に裁判が起こるという事象が起こっており、これによって裁判が増えているという現実がある。報告書では今後の安全性を高めるために厳しく書いていることが多いらしく、制度の目的とは全く違うが、裁判が増えているという現実があるということであった。」

**木村正理事長**「医療安全の世界においても、現場の状況を厳格にレギュレーションしようとする考え方や、今現在の医療現場を尊重した上でどのように進めていくのかを考えるなど、いろいろな考え方がある。仕方がないことをどこまで理解していただくか、本委員会のマターではないが、注視しなければならないと思う。」

#### 9) 公益事業推進委員会（小林陽一委員長）



(1) いわゆる「生理の貧困」に関する啓発動画

[https://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content\\_id=18](https://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=18) について

①現在掲載の動画はダウンロードができないように設定してあるが、今後ダウンロード可能な状態にすることへの賛否についてご意見をお伺いしたい。

**小林陽一委員長**「学校の先生などに気軽に授業等で利用していただくにはダウンロードしていただいた方が使い勝手がよいので、今後ダウンロード可能な状態にすることをについてお認めいただけないか。」

**木村正理事長**「内容的には何か問題になるようなことはないか？」

**小林陽一委員長**「問題となるような内容ではないと思っている。」

**木村正理事長**「申請制にするのも事務局は大変になるため、ダウンロードを許可することで進めていただく。」

本件についてダウンロード可能なシステムにすることが、全会一致で承認された。

②モバイルサービス事業所で女性の健康情報サービスを行っている外部業者「株式会社エムティーアイ ヘルスケア事業本部 ルナルナ事業部」に動画配信を依頼した。

③6月23日現在、本会HP内において動画アクセス数は584件～1,293件である。

**小林陽一委員長**「議事に記載していないが、生理の貧困に対する啓発動画は小・中・高校正の若年女性を対象としているが、学校の先生用に解説動画を作成した。本会HPに掲載するにあたり、まずは委員会でチェックをいただきたい。」

**木村正理事長**「SRHR委員会にチェックをお願いし、理事会で確認する方針としたい。」

(2)株式会社ビアンフェ.という主に冠婚葬祭に関する事業等を行っている企業より、SDGsに関する取組みの一環として、昨年引き続き本会宛ご寄附を頂戴した。

10) 子宮頸がん検診・HPVワクチン普及推進委員会（宮城悦子委員長） 特になし

11) SARS-CoV2（新型コロナウイルス）感染対策委員会（川名敬委員長）

(1)「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応～周産期医療を中心に～」(第7版)の改訂を行っている。厚労省からの「新型コロナウイルス感染症の診療の手引き（第10版）」発信を待って確定する予定である。

(2)新型コロナウイルスワクチンの優先接種対象への妊婦の再組入れに関する要望書について

[資料：感染対策1]

**川名敬委員長**「5類移行後に厚労省が定めるワクチン優先接種対象者から妊婦が外されたことに関して、優先接種対象に妊婦の明記をお願いしたいという厚生労働省への要望書である。今年になってから優先接種対象が、65歳以上と基礎疾患を有する者、その他重症化リスクが高い者の二つだけに絞られた。厚生労働省に確認すると医師が、リスクが高いと認めるものの中に妊婦が入っているということだが、実際の厚生労働省からの提示を見ると、細かいいくつかの例

の中に妊婦が外されているという状況である。この夏に向けて妊婦の感染者数も増えてきているような印象もあり、やはり妊婦へのこれらのワクチンは必要性がある。その中で今年の3月に Lancets 誌に掲載された研究では、妊婦へのオミクロン株に対するワクチン接種が、有意に重症化率を下げ、しかも接種後半年以上経過すると感染リスクが上がるというデータが掲載されていた。それを受けて WHO も 3/30 の発信の中で、特にワクチン接種後6ヶ月を経過した妊婦は重症化リスクがあるとし、これを盛り込んだ文章を作成した。日本においてもエビデンスをもとに妊婦を優先接種対象に含めるという要望書を作成した。本会のみでなく予防接種推進専門協議会への参加学会を含む24団体で進めていくことについてお諮りしたい。」

**木村正理事長**「副作用・効果の面でエビデンスもあることから要望書を出して働きかける。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 12) 臨床研究審査委員会（万代昌紀委員長）

### (1) 臨床研究審査報告

#### 【旧指針】

①新規申請 0件

②変更申請 0件

③終了申請 0件

#### 【人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針】

① 新規申請 1件

・久留米大学 医学部産婦人科学講座 教授 吉里俊幸会員より日本産科婦人科学会 ART 登録データベース使用申請として承認された「本邦における生殖補助医療（ART）後妊娠における癒着胎盤（PAS）の発生頻度およびその関連因子に関する観察研究」について審査を行い、5月16日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究1]

・埼玉医科大学 総合医療センター 准教授 松永茂剛会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された「周産期データベースを用いた、常位胎盤早期剥離の予測モデルの作成に関する研究」について審査を行い、6月20日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究2]

②変更申請 0件

③終了申請 0件

**万代昌紀委員長**「現在、データベースの突合研究の申請が増加している。例えば、周産期データと、生殖のデータを合わせると、生殖の方法による周産期医療がわかるといった研究である。非常に強力な研究であり、本会のデータベースを有効利用するためにもそういった研究を考えていただくのは非常によいと思うが、一方で個人の特定に繋がらないかという指摘を受けることが出てきている。どうしていくべきかを、次期委員会へ申し送りたいと思っているが、少なくとも何かの形で、誓約書を出していただく、或いはチェック項目を作っていくなど、個人の特定には繋がらないといえる形が必要だと考えている。」

(2) 2022 年度年次報告  
提出済 27 件、未提出 6 件

### Ⅲ. その他

閉会にあたり、任期を終える木村正理事長より感謝の意を表すご挨拶があった。また、この 4 年間の本会の活動をまとめた冊子を作成し、理事会メンバーに郵送したことが伝えられた。

以上

令和 5 年 9 月 2 日

議事録署名人 木村 正

⑩

藤井 知行

⑩

増崎 英明

⑩

八重樫 伸生

⑩